

令和 8 年度 学校経営計画

1 学校教育目標

豊かな心と主体的に生きる力を養い、自立と社会参加を実現できる人間を育成する。

2 学校の特色

本校は、肢体不自由養護学校として県内で最も早く設置された学校である。現在、小学部、中学部及び高等部に在籍する肢体不自由のある児童生徒並びに高等部に在籍する軽度知的障害のある生徒が共に学んでいる。様々な事情から通学が困難な児童生徒のために、教員を派遣して教育を行う訪問教育を行っている。肢体不自由のある児童生徒の障害の状態像に合わせた校内環境の充実、給食の食形態の工夫、医療的ケア等を実施するとともに、通学支援としてスクールバスの運行と寄宿舎を設置している。高等部に在籍する軽度知的障害のある生徒に対しては、一般就労を目指し、作業学習や専門教科などの職業教育を中心とした学習を行っている。

児童生徒一人ひとりの障害の状況や教育的ニーズに応じて「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を作成・活用し、きめ細かな指導・支援に努めるとともに、生きる力を育み、学校生活において学んだ知識や技能を日常生活にも活かせるよう授業実践に取り組んでいる。また各種行事や校外学習等を通して社会経験の拡充を図ったり、関係機関と連携したりしながら、児童生徒一人ひとりの卒業後の豊かな生活を目指したキャリア教育の充実に努めている。さらに、交流及び共同学習（居住地校交流、学校間交流）を行い、児童生徒の人間関係づくりと地域生活支援を積極的に進めている。

3 学校の現状と課題

一人ひとりの教育的ニーズが大きく異なる児童生徒が在籍している本校において、ICTの活用は、障害による学習上の障壁を取り除き、児童生徒の「できる」を広げる有効な手段であると考え。また、一人1台端末が整備されており、児童生徒の実態に合わせて、ICTを活用することでより分かりやすく、楽しく授業をすることができると考える。しかし、現状としては、教員の授業におけるICTの活用状況が多様であり、ICTの活用能力に格差が見受けられ、優れた実践や活用方法等が一部の教員に留まっている傾向がみられる。

そこで、今年度から2か年計画で「ICTを用いた指導・支援の充実と児童生徒の学びを豊かにする実践の共有 一個々のICT活用能力を高める仕組みづくりをめざして」を研究主題に掲げ、研究に取り組んでいく。全教職員のICTの基本操作技術を向上させ、授業実践事例や教材等を蓄積し、それらを円滑に教職員間で共有し活用するための基盤を作ることで、学校組織としての指導力向上へとつなげていきたいと考える。また、培ったICT活用能力を指導場面で活用し、互見授業や意見交換等を通して、さらなるICTの活用へとつなげ、活用能力を高めていきたいと考える。

令和 8 年度 学校教育計画

項 目		目標・方針及び計画			
1	学習活動	教育課程編成	目標	○既習内容や3観点を踏まえた目標の立案、評価により、学習活動の充実を図る。	
			計画	○年間指導計画の内容及び目標と「教科学習の記録」(ⅠⅡ)、「学びの軌跡」(ⅢⅣ、知、訪)の既習内容、評価等を確認して、授業計画を立てる。	
				○「教科学習の記録」(ⅠⅡ)や「学びの軌跡」(ⅢⅣ、知、訪)の効果的な活用を目指して、様式を修正したり、評価や記録等の記入方法について工夫したことを共通理解したりする。	
		教科指導(小学部)	目標	○基本的な生活能力を高めるとともに、友達や教師との関わりを広げ、自分から活動できる児童を育てる。	
			計画	○児童の障害や健康状態、教育的ニーズを的確に把握し、学習形態や指導・支援の在り方を工夫し、学習内容の充実に努める。	
				○生活力を高めるために、生活科の基礎的・基本的な内容を重視しながら、教科等横断的な視点での授業実践を行う。	
			○様々な体験活動の充実を図り、学習に対する興味・関心を大切にしたい学習指導を行うとともに、周囲の人やものに積極的に関わっていく態度や豊かな感情を育てる。		
			教科指導(中学部)	目標	○人との関わりや生活経験の拡大を図るとともに、主体的に学習や活動に取り組む生徒を育てる。
				計画	○生活に関連した題材を取り扱うとともに、必要な情報を学部全体で共有しながら、生活に活かす視点で、PDCAサイクルに基づいた授業実践を行い、教科等横断的、系統的な指導の充実に努める。
			○生徒同士で話し合ったり、認め合ったりする対話的な活動、自ら見通しをもって取り組む主体的な活動を通して学びが深まるよう、効果的な学習形態や指導方法を工夫する。		
				○生徒の障害の状況や教育的ニーズを的確に把握して、特性及び健康状態に応じた学習方法や学習環境を工夫する。	
				教科指導(高等部)	目標
計画	○生徒の実態の捉え方や進路指導の進め方の知識を高め、生徒一人一人の障害に基づく困難を捉え、現在及び卒業後に必要とされる資質・能力を高められるように、担当者間で連携して指導に当たる。				
		○集団活動や人と関わる場面を設定し、自分の考えを広げたり、他者の意見を受け入れたりする経験を積むことで、社会性の伸長を図り、自ら周囲に働き掛けようとする態度を育てる。			
教科等指導(訪問教育)		目標	○児童生徒の能力や個性を大切にして、年齢やニーズに応じた支援を行い、健康の保持・増進に努めるとともに、人との関わりを広げ、自ら取り組もうとする意欲を育てる。		
		計画	○児童生徒の所属する学部との連携を深め、生活年齢と発達段階に配慮した学習内容の精選と教材の工夫に努め、訪問教育の充実を図る。		
		○家族や医療機関との連携を密にするとともに、ICT機器や遠隔教育システムを活用して通学生と合同で学ぶ機会を設け、訪問教育の充実を図る。			

		研 修	目 標	○教職員の主体的な学びを支える研修情報の提供と自己研修の奨励に努める
			計 画	○県や市の教育センターが実施する外部研修やオンライン研修（オンデマンド配信等）情報を周知する。 ○個人の学びを自由に閲覧板やチャットツールで共有できるようにする。
		I C T 機器活用 重点 1	目 標	○ <u>I C T機器の活用による、個別の学習支援の充実と表出機会の充実に努める。</u>
			計 画	○ <u>既存の会議や I C T ツールを活用した事例共有を行い、児童生徒の実態に応じた I C T 活用場面を広げるとともに、教職員間の情報共有を図る。</u>
2	学 校 生 活	保健管理	目 標	○児童生徒が健康、安全に学校生活を送れるよう実態に応じた健康管理の充実に努める。 ○事故を未然に防止する視点をもつとともに、緊急時の対応における救急体制の整備と、対応訓練の充実に努める。
			計 画	○毎日の健康管理や保護者との情報交換により児童生徒の生活習慣や健康状態を把握して、基本的生活習慣の育成や個に応じた健康の保持増進に努める。 ○インシデント・アクシデントへの気付きを促す取組により安全意識を高め、事故を未然に防ぐ視点で学習環境の改善に努める。また、緊急対応アクションカードを用いて緊急対応訓練を行う。 ○医療的ケアの実施体制及び、医療機関との連携を含めた緊急体制を教職員に周知する。
		生徒指導	目 標	○生徒指導上の問題に的確に対応することができる。 ○災害時における組織的対応力を高める。
			計 画	○生徒指導上の諸問題の実情を情報収集し、全教職員で共通理解を図り迅速な対応や指導を行う。 ○危機管理マニュアルなどで、教職員全体で共通理解を図り、より実践的に避難訓練等を行う。
3		進路支援	目 標	○進路指導の充実を図る。 ○進路啓発の取組の充実を図る。
			計 画	○進路の情報や進路に関する学習をまとめた進路の手引きを活用し、教員や本人、保護者の理解を高め、進路指導に取り組むようにする。 ○個に応じた進路選択・決定ができるように、必要な福祉・進路情報を収集し、提供する。 ○関係機関と連携し、企業及び福祉事業所の開拓を積極的に行う。
4	特 別 活 動	特別活動	目 標	○児童生徒会活動の活性化を図る。
			計 画	○学校行事や児童生徒会執行部が企画する行事、各専門委員会の活動を通じて、全校児童生徒が協力して活動できるようにする。
		学校 図書室	目 標	○読書環境を整備する。 ○図書に親しむ機会を増やし、読書活動を推進する。

			計画	○各学部の児童生徒が利用しやすいように図書室の環境を整備する。 ○読み聞かせや読書活動を促して、図書に親しむ機会を設ける。
5	その他	寄宿舎	目標	○舎生一人一人の実態に応じた生活支援を行うとともに、生活力の向上を図る。 ○安心安全に生活するための行動や緊急時の安全確保に関する行動について確認し、舎生が実行できるようにする。
			計画	○家庭や学校と情報交換を密にし、連携を図りながらスモールステップの目標を設定し取り組む。 ○舎生が健康で安心できる生活を送るための対策をとるとともに、緊急時にスムーズな対応ができるように、宿直時の体制確認や様々な想定訓練を行う。
		教育支援	目標	○地域のセンター的機能の充実を図るとともに、適切な就学につながる情報提供や教育相談を行う。 ○本校の特色の理解・啓発のために、方法を工夫し、情報を提供する。
			計画	○就学・進学の仕事についての理解を促すとともに、保護者の心情を理解した教育相談に努める。 ○特別な支援を必要とする幼児児童生徒への支援や障害に関する様々な相談に対応できるよう、研修会等への参加や事例検討を行い、専門性の向上に努める。 ○学校見学会や学習参観期間などにおいて、I C Tを活用して参加者等のニーズを把握し、対象者に伝える内容を整理して、情報を伝える。
		図書情報 (学校 H P)	目標	○本校の教育活動への理解啓発を図るため、日々の授業や行事等での活動の様子を含めた様々な情報を積極的に発信する。
			計画	○各学部や分掌と連携し、日々の学習の様子や情報を発信する。 ○学校H Pの更新を積極的に行い、必要な情報を発信する。
		P T A 活動	目標	○P T A活動の在り方を見直し、活性化を図る。
			計画	○P T A役員と担当教員との連絡・調整を密にし、無理のない活動内容の検討、工夫を行う。 ○P T A活動を通して、児童生徒に係る課題を、保護者と教員とで一緒に考える。

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和8年度 富山総合支援学校アクションプラン 教育支援部、教務部		
重点項目	その他 ー教育支援ー	
重点課題	「ICT 活用による外部（放課後等デイサービス事業所『以下、放デイ』）との連絡調整とニーズの把握」	
現 状	○連絡調整について - 放デイへの各種案内は、昨年度まで児童生徒の送迎時に担当者が紙媒体を手交していた。しかし、支援の合間に対応する必要があり、配付に時間を要することが業務上の負担となっていた。 - 放デイ連絡会の日程調整は、参加申込みの案内を手交し、送り返してもらい希望の日時を把握していた。返事がない場合、電話連絡をしており、連絡調整に多くの時間と手間が掛かっていた。 ○ニーズの把握について - 昨年度の学校説明会後のアンケートは紙媒体で行った。参加者によって、知りたい情報に違いがあり、多岐に渡っており、正確なニーズの把握を行い、情報提供していく必要があると考えた。 - 今年度から、学校説明会を実施しなくなったため、今後は、年3回の学習参観期間に参観いただき、アンケートを実施し、放デイのニーズを把握するとともに、児童生徒の理解と情報共有につなげていくこととする。	
達成目標	放デイ連絡会や学習参観期間の連絡などにおいて、Google フォームを用いた参加の申込みやアンケートの実施4回以上。	学習参観期間において、Google フォームを用いた参加希望調査や事後アンケート（ニーズの把握）の回答率が回を重ねるごとに増える。
方 策	○連絡調整について <放課後等デイサービス連絡会> - Google フォームを活用し、実施可能日時や打合せ希望内容を集計し、回答がない場合にはすぐに電話連絡を行い、迅速かつ確実な日程調整を図る。 <学習参観> - 学習参観の案内は「安心安全メール」で送信し、参加希望の受付および事後アンケートはGoogle フォームを活用できるようにし、集計業務の効率化と回答率の向上を図る。回答が少ない場合は、安心安全メールで再度呼び掛ける。 ○ニーズの把握について（学習参観を通して） - 学習参観期間後にGoogle フォームを用いたアンケートを実施し、授業の感想や質問、今後の要望等を収集する。結果を教員間で共有し、放デイへの情報提供をまとめたり、授業改善につなげたりする。	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）